

令和5年度（第62回）農林水産祭

「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」（トップリーダー発表会）

【消費者の求める「皮まで食べられるレモン」に特別栽培で取り組む】

《スケジュール》

13:30～16:00

（敬称略）

- | | | | | |
|---|---|-----------|--|----------------|
| 1 | 開 | 会（13:30） | 公益財団法人 日本農林漁業振興会 常務理事 | 小栗 邦夫 |
| 2 | 挨 | 拶 | 農林水産省大臣農林水産技術会議事務局研究推進課
技術政策情報分析官
広島県農林水産局農水産産振興担当部長 | 島津 久樹
向井 雅史 |
| 3 | 選 | 賞 審 査 報 告 | 農林水産祭中央審査委員会園芸分科会主査
（農研機構・生物系特定技術研究支援センター
研究開発監） | 檜村 芳記 |
| 4 | 業 | 績 発 表 | 令和5年度農林水産祭園芸部門天皇杯受賞
せとだエコレモングループ 会長 | 宮本 悟郎 |

・・・休 憩 （14:30～14:40）・・・

- 5 ディスカッション （14:40）
（登壇者）
- ・コーディネーター
檜村 芳記（3に同じ）
 - ・業績発表者
宮本 悟郎（4に同じ）
 - ・コメンテーター
徳田 博美（農林水産祭中央審査委員会経営分科会専門委員
（名古屋大学大学院農学研究科教授））
根角 博久（農研機構・果樹茶業研究部門研究推進部長）
柳本 裕子（広島県立総合技術研究所農業技術センター果樹研究部 副部長）

（内容）

- ・意見交換、質疑応答
- ・総括

- 6 閉 会（16:00）

**令和5年度(第62回)農林水産祭
「優秀農林水産業者に係るシンポジウム」
(消費者の求める「皮まで食べられるレモン」に
特別栽培で取り組む)**

選賞審査報告

農林水産祭中央審査委員会 園芸分科会主査

樫村 芳記

(農研機構生研支援センター)

【農林水産祭の趣旨】

国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37年から実施。令和5年度は62回目。

【農林水産祭選賞部門】

- 農産・蚕糸部門
- 園芸部門
- 畜産部門
- 水産部門
- 林産部門
- 多角化経営部門
- むらづくり部門
- 女性の活躍

【授賞区分】



天皇杯



内閣総理大臣賞

日本農林漁業振興会
会長賞

【第62回農林水産祭(園芸部門)選賞経過】

- **選賞対象**: 令和4年7月～令和5年6月の農林水産祭参加表彰行事において農林水産大臣賞を受賞した153点
(うち野菜32点、果樹37点、花き68点、経営16点)

- **選賞経過**

令和5年7月26日 第1回園芸分科会にて書類選考により
現地調査対象を選出

令和5年8月22～31日 現地調査

令和5年9月7日 第2回園芸分科会にて三賞候補を選考

- **選考委員**(園芸分科会委員・専門委員)

＜委員＞

樫村芳記(農研機構)、片岡圭子(愛媛大学)、中山真義(農研機構)

＜専門委員＞

徳田博美(名古屋大学)、西山未真(宇都宮大学)、坂田好輝(元 農研機構)
山崎 篤(農研機構)、田中芳秀(ながさき西海農協)、本多親子(東京大学)
大西 隆(セントラルローズ)、山中正仁(兵庫県立農林水産技術総合センター)

* 下線は本日の参加者

【三賞の決定】

天皇杯

せとだエコレモングループ

(会長 宮本 悟郎) 広島県尾道市
「消費者の求める「皮まで食べられるレモン」
に特別栽培で取り組む」



内閣総理大臣賞

JAやさと有機栽培部会

(部会長 田中 宏昌) 茨城県石岡市
「地域に新規就農者を呼び込み、
ともに地域資源循環型農業に取り組む」



日本農林漁業振興会会長賞

JA愛知みなみスイートピー出荷連合

(代表 小久保 禮次) 愛知県田原市
「部会員が一体となりブランド化、高品質化を
推進するスイートピー生産」



【天皇杯受賞理由】

1. 受賞者の取組の経過と経営の現況

- 輸入自由化と寒波によりレモンの生産が激減した瀬戸田町では、消費者の安全・安心志向に応えることで産地の復興を図るべく、レモンの特別栽培に挑戦
- 平成20年に生産者全員が広島県特別栽培農産物の認証を取得し、せとだエコレモングループを結成
- 特別栽培された「せとだエコレモン」の安定出荷や販路の確保に努めた結果、瀬戸田町は国内有数のレモン産地に発展

【天皇杯受賞理由】

2. 受賞者の特色

① 特別栽培技術の確立

- 安定生産を基調として化学合成農薬・化学肥料の使用を低減した特別栽培に組織的に取り組み、独自の栽培基準や栽培管理手法を確立
- 消費者の安全・安心志向に対応した「皮まで食べられるレモン」の安定供給を実現
- 低温ハザードマップを活用し、収穫時期の寒波による被害を軽減する取組を推進



【天皇杯受賞理由】

2. 受賞者の特色

② 安定的な販路確保と加工商品の開発

- 一般栽培に比べて加工仕向けの割合が高いため、食品メーカー等と連携して付加価値の高い商品を開発
- 量販店と連携した情報発信、周年出荷の取組、商標登録によるブランド力強化を図る等により販路の確保及び高価格での取引を実現



皮まで安全安心な『せとだエコレモン®』

- これらの取組により、生産者が安心して特別栽培に取り組める環境を構築

【天皇杯受賞理由】

3. 普及性と今後の発展方向

- スマート農業技術を活用した栽培の省力化や生産性の向上
- 長期間の収穫が可能なレモンを組み込むことによる柑橘経営の大規模化・高収益化
- 地域資源(かき殻)を利用した特別栽培の展開



持続性の高い経営と産地を確立し、次世代へ

「せとだエコレモン」を起点とした地域経済活性化への貢献



せとだエコレモングループ これまでのあゆみ

～令和5年度(第62回)農林水産祭園芸部門天皇杯受賞者の業績～

令和6年2月20日

せとだエコレモングループ 会長 宮本悟郎

目 次

- 1 地域の概況
- 2 グループの概要
- 3 経営の特色
- 4 経営の成果
- 5 今後の取組方向

1 地域の概況

(1) 立地条件

- 尾道市瀬戸田町は、県の南東部に位置する生口島、高根島の二つの島からなり、合計面積は32.75km²。
- 国内外からしまなみ海道サイクリングに訪れる観光客が増加している。
- 温暖で雨の少ない瀬戸内特有の気候。
(平均気温15.9℃、年間降水量1,100mm)
- 風が弱い瀬戸内の地域は、かいよう病の被害を回避する上でも好条件。
- このため、瀬戸田地域は全国一のレモン産地となっている。



1 地域の概況 「レモンの島」





2 グループの概要

(1) レモン栽培の導入と生産拡大～輸入自由化による激減

- ・ 地域には水田がなく、総農家の50%が柑橘専業農家。
- ・ 1戸当たり経営面積は約1.5haで、県内の柑橘産地では規模が大きい。
- ・ 明治32年 ネーブル導入
- ・ 昭和元年 レモン商業栽培開始
- ・ 昭和6年 うんしゅうみかん導入
- ・ 昭和38年 全国一のレモン産地に。瀬戸田産が900tとなり、全国のレモン生産量の75%を占める。
- ・ 昭和39年 レモン輸入自由化。生産量は自由化前の1/3に激減。

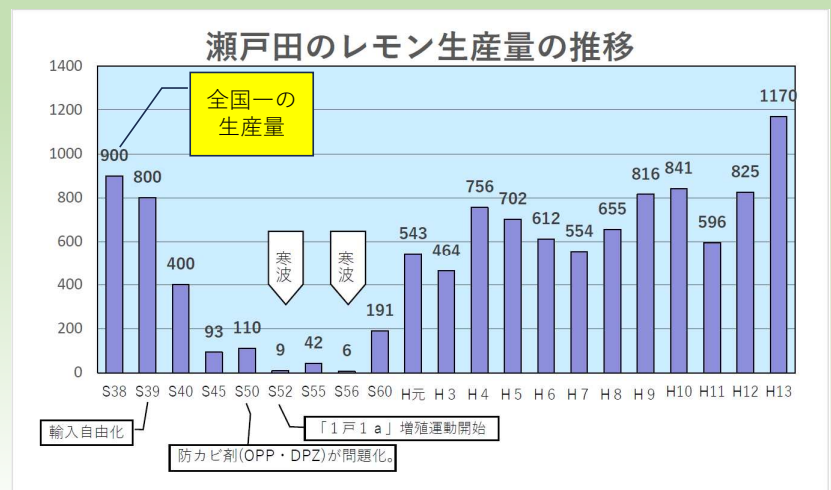


国産レモン発祥の地 石碑

2 グループの概要

(2) 産地復興目指し「一農家一畝運動」(苗10本/1a)開始

- ・ 昭和50年 輸入レモンに使用される防カビ剤への消費者の懸念が高まり、「安全・安心な皮まで食べられる国産レモン」への期待が高まる。
- ・ 昭和52年 レモン増産に取り組むことを決定。「一農家一畝運動」を開始。
- ・ 昭和52年、56年の記録的寒波等により数年間は伸び悩んだものの、地道な努力で徐々に生産が回復。
- ・ 平成13年には昭和のピークを超える生産量となった。



2 グループの概要

(3) 環境に配慮した生産のはじまり

- 平成10年代 堆肥による土づくりや被覆植物の利用など環境に配慮した栽培を推進。
- 平成15年 第8回環境保全型農業推進コンクールで優秀賞を受賞。
- 平成20年「安心！広島ブランド」特別栽培農産物の認証取得を契機に「エコレモン」が誕生。
- 同年、エコレモン栽培者248戸からなる「せとだエコレモングループ」発足。



2 グループの概要

消費者の求める「皮まで食べられるレモン」の生産に産地全体で基準を統一した特別栽培で取り組む。



農林水産省新ガイドラインによる表示	
特別栽培 レモン	
節減対象農業	当地比5割減
化学肥料（窒素成分）	当地比5割減
栽培責任者	ひろしま農業協同組合 柑橘事業部 せとだ営農販売課長
住所	広島県尾道市瀬戸田町中野408-8
連絡先	0845-27-2295
確認責任者	ひろしま農業協同組合 柑橘事業部 せとだ営農指導課長
住所	広島県尾道市瀬戸田町中野408-8
連絡先	0845-27-1885

2 グループの概要

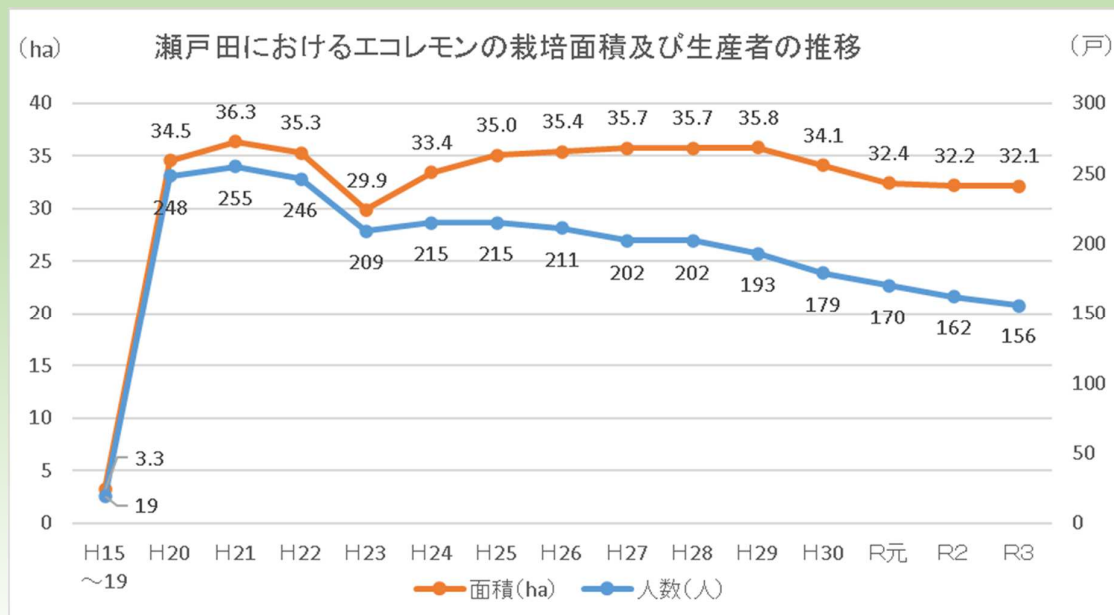
(4) グループの現況

- ・令和3年のエコレモン生産者は156戸。栽培面積は32ha。
- ・令和3年産は604tを出荷。
(多い年には約1千トン。)
- ・販売額は約2億円。
- ・令和5年第52回日本農業賞(集団組織の部)大賞を受賞。
- ・令和5年第62回農林水産祭天皇杯(園芸)を受賞。



2 グループの概要

(5) 発足後の生産概況



2 グループの概要

(6) 生産概況

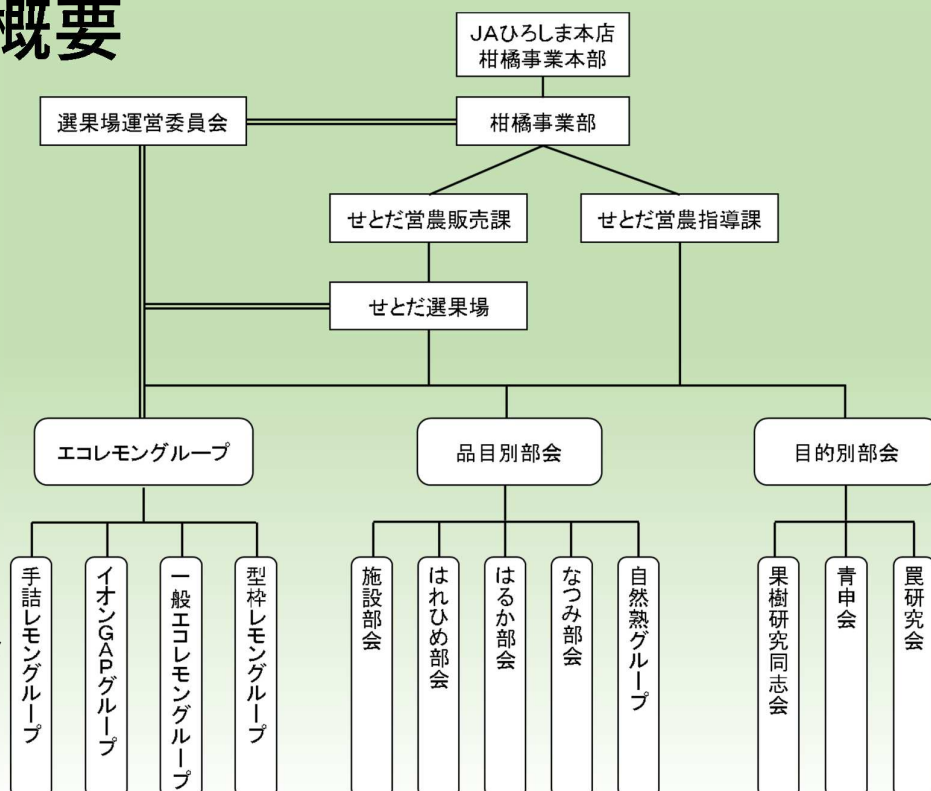
せとだエコレモングループ 近年の生産者数及び販売額

年 度	生産者数 (戸)	面積(ha) ※ J A 出荷	販売量(t) ※ J A 出荷	販売額 ※ J A 出荷
平成30年度	178	34.1	502	1億8千百万円
令和元年度	170	32.4	996	3億1千4百万円
令和2年度	162	32.2	710	2億5千2百万円
令和3年度	156	32.1	604	2億円

2 グループの概要

(7) 組織の概要

- ・ エコレモンは販売を重視。選果場と結び付きが強い体制。
- ・ 販売先や形状に応じ、エコレモンを4区分。
 - 型枠（ハート・スター）
 - 一般エコレモン（生果・加工）
 - イオンGAP（イオンの栽培基準）
 - 手詰（外観が優れ、傷付かないよう手詰めしたもの）



3 経営の特色

(1) エコレモン栽培基準の策定・遵守

- ・ J A が毎年「エコレモン栽培管理暦」を更新・配布
- ・ 使用する農薬、肥料等を構成員に周知・徹底
- ・ 組織的にレモンの特別栽培に取り組む意識の共有

せとだエコレモンの栽培基準

- ① 環境ホルモンの疑いのある農薬は使用しない
- ② 除草剤は年 2 回以内の使用
- ③ 農薬飛散の可能性がある混植園の果実はエコレモンから除外
- ④ 収穫物の定期的な残留農薬検査
- ⑤ 全員が防除履歴の記載・提出を行う

3 経営の特色

(2) 市場の卸売機能の発揮・量販店との連携

- ・ 当初は、輸入レモンに市場を奪われ、国産レモンの認知度は乏しい。
- ・ 一方、レモン植栽の増加で出荷量が増え、需給バランスが崩れる危機。

- ・ 市場の卸売機能を最大限活用し、販路拡大する戦略を採る。
- ・ 各市場を産地自ら訪問し、安全・安心なエコレモンの価値をアピール。

- ・ 地道な努力で近畿から東日本にかけ、多くの市場を通じた販路を確保。
- ・ イオングループや生協と市場経由で安定的な取引を実現。
- ・ エコレモン栽培基準と、イオン G A P や生協の基準とのすり合わせ

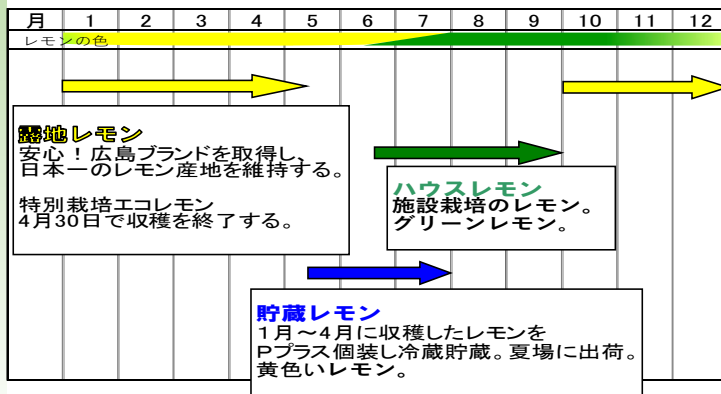
- ・ 実需者との信頼に基づいた安定的な取引関係を築いている。

3 経営の特色

(3) 長期貯蔵技術により長期販売

- ・ 10月から4月 露地レモン
- ・ 翌年5月から7月 鮮度保持フィルムで個包装した貯蔵レモン
- ・ 6月から9月 ハウスレモン（特別栽培ではない）

露地、施設、貯蔵レモンでの周年供給体制を整える。



3 経営の特色

(4) 他産地との連携

- ・ 5月～7月出荷の貯蔵レモンをJAながののりんご用冷蔵庫で貯蔵。
 - 瀬戸田からJAながのにコンテナ輸送
 - JAながので選果・仕分け・貯蔵
 - レモンの需要が増える5～7月時期に東京を中心とした関東市場に出荷

JAながののメリット

- ・ りんご作業の閑散期の雇用確保
- ・ 貯蔵施設が空く時期の利用料収入

瀬戸田のメリット

- ・ 自前貯蔵に比べ経費が2割程度減



4 経営の成果

(1) メーカーとともに商品開発・ブランド化

特別栽培では慣行の1/2以下の農薬使用量で栽培するため、慣行に比べ病虫害被害果が多い傾向。

生食用レモンだけでなく、菓子等の加工向け販売にも力を注ぐことで、多くの商品が開発された。

せとだエコレモンのブランド化が一層進展した。



4 経営の成果

(2) メーカーとともに商品開発・ブランド化



4 経営の成果

(3) メーカーとともに行う商品開発・ブランド化

- ・メーカーと連携し、様々なレモン商品を提案・開発
- ・エコレモンの安定的な販路確保

🍋ブランド力強化🍋

- ・せとだエコレモングループの販売単価は、県指標を上回る。
- ・生産者は安定収入が確保でき、特別栽培に取り組める。
- ・生産規模が維持される。

第3表 せとだエコレモンと広島県経営指標との単価の比較

	広島県 経営指標	令和元年 エコレモン	令和2年 エコレモン
販売量 (kg/10a)	3,000	3,073	2,208
販売額 (円/10a)	819,000	967,995	783,840
単価 (円/kg)	273	315	355

※ 加工仕向けのものを含む

5 今後の取組方向

(1) 先端技術の活用

① スマート農業技術

- ・従業員が栽培技術を長年の経験ではなく短期間で習得可能に。
- ・圃場管理データに基づいた管理。
- ・レモンの栽培や選別作業の省力化を図るスマート農業機器の開発。



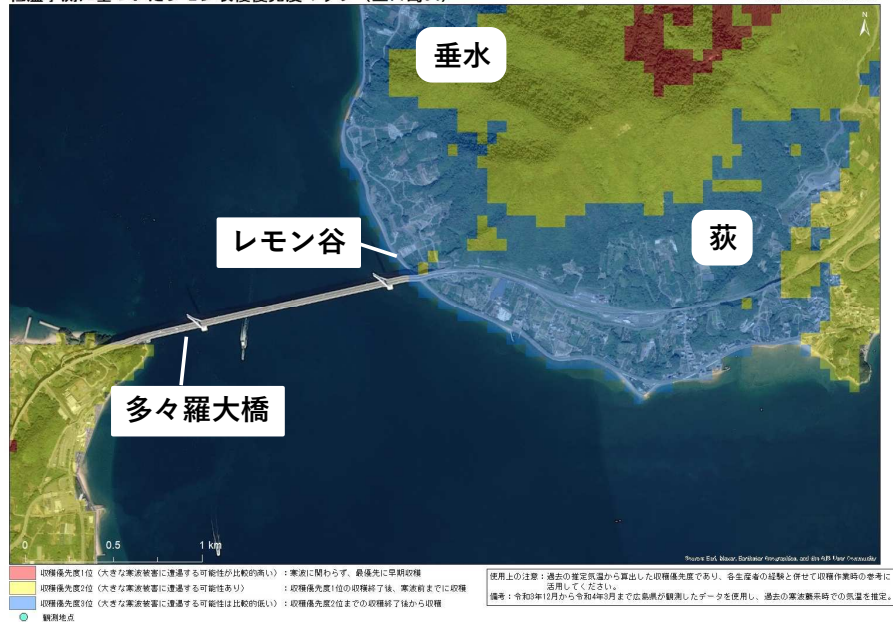
5 今後の取組方向

(1) 先端技術の活用

② 低温被害の回避・抑制

- ・ レモンは低温被害を受けやすいため、観測データに基づく予測により、危険度を地図化。
- ・ 今後は低温遭遇危険度の高い園地から収穫を始めるよう指導し、出荷量の安定と樹体被害抑制を図る。

低温予測に基づいたレモン収穫優先度マップ（生口島04）



23

5 今後の取組方向

(2) セとだエコレモングループの決意

今後も私たちは、全国一のレモン産地である広島県で
レモン生産の中核を担い、

「皮まで食べられるレモン」のトップランナーとして、
減化学肥料・減化学合成農薬の取組を進め、

エコレモンを起点とした地域経済活性化に貢献し、

せとだエコレモングループの誇りを次世代へと
受け継いで行きます。

24



ご清聴いただき
ありがとうございました。